

下関市医療対策協議会（下関医療圏地域医療構想調整会議）

（令和5年度第1回）議事概要

【日 時】 令和5年5月29日（月） 19：00～20：30

【場 所】 下関市役所 西棟5階 大会議室

【出席者】 出席者名簿のとおり

【議事内容】

- 各医療機関の対応方針の検証・見直し結果等について協議し、各医療機関の役割や構想区域全体の医療提供体制の方向性等について合意した。
- 下関市立豊田中央病院から、公立病院経営強化プランについて説明があり、地域医療構想との整合性について確認した。
- 紹介受診重点医療機関の選定について協議し、5つの医療機関を選定した。
- 新たに開設した2つの診療所が「在宅医療」を実施しないことを例外的事項に該当するとみなすことについて協議し、合意した。
- 下関医療圏地域医療構想調整会議「第2次中間報告」の意見募集及びシンポジウムの結果について報告した。

1 令和5年度地域医療構想調整会議の進め方について

2 対応方針の検証・見直し等について

県医療政策課から、令和5年度地域医療構想調整会議の進め方について説明を行った。

また、各医療機関における検討結果にもとづき、各医療機関の具体的対応方針の検証・見直しや、構想区域全体の2025年の医療提供体制に係る協議を行った。

その結果、各医療機関の役割や構想区域全体の医療提供体制の方向性等について合意した。

（主な意見・質問等）

- 入院医療だけでなく、在宅医療や介護の提供体制の整備についてもスピードをあげて検討してほしい。

⇒ 今年度に行う第8次山口県保健医療計画の策定作業の際に、将来の医療・介護提供体制について、地域の郡市医師会はじめ、医療、介護、福祉の関係者の意見をしっかりと聴きながら検討を進めていきたい。

○ 国は、高齢者人口がピークを迎えて減少に転ずる2040年頃を視野に新しい地域医療構想の検討を行うとのことだが、高齢者人口のピークは山口県や下関市では2040年よりも早い。それでも、2040年頃を視野に地域医療構想を策定するのか。

⇒ 高齢者人口については、国全体では2040年にピークを迎えるが、山口県ではすでにピークを迎えて高齢者人口が減少している二次医療圏があることから、地域の実情に応じて地域医療構想の取組を進める必要があると考えている。

3 公立病院経営強化プラン（下関市立豊田中央病院）について

豊田中央病院から、公立病院経営強化プランについて説明を行った。

プランでは、市北部地域の中核的な病院として地域で必要とされる医療を持続的に提供していくため、圏域内の医療機関との機能分化を明確にし、連携を強化することなどが示された。

協議の結果、病院の果たすべき役割・機能などについて、地域医療構想との整合性を確認した。

（主な意見・質問等）

○ 休棟中の療養病床11床について、回復期病床として再稼働させる計画だが、どのように運用するのか。また、当該療養病床を回復期病床とする理由は何か。

⇒ 医師不足により医療ニーズに答えきれていないことから、まずは医師を確保して病床利用率を向上し、病床の再稼働を目指したい。病床を再稼働する際には、病床機能をしっかりと検討したい。

○ 他病院においても、医師、看護師等の確保が困難な状況であるが、本当に医師を確保し、収益をあげることができるのか。

⇒ 総合診療医の育成などに取り組むことで、医師確保を目指している。総合診療医を育成することで、地域医療を目指す医師を増やし、結果的に医師不足を解消し、医師が確保できるよう取り組んでいる。

4 紹介受診重点医療機関の選定について

県医療政策課から、紹介受診重点医療機関の選定について説明を行った。

協議の結果、関門医療センター、済生会下関総合病院、下関市立市民病院、下関医療センター及び長府第一クリニックを選定した。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はない

5 外来医療計画に係る報告について

県医療政策課から、医療機器の共同利用計画について報告するとともに、新たに開設した2つの診療所の外来医療機能において、「在宅医療」を実施しないことを例外的事項（診療科目の特性上、実施に馴染まない）に該当するとみなすことについて、協議を行った。

その結果、下関市医師会からの意見も踏まえ、いずれの診療所も例外的事項に該当するとみなすことについて、合意した。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

6 下関医療圏地域医療構想調整会議「第2次中間報告」の意見募集及びシンポジウムの結果について

市保健部より、前回の調整会議で取りまとめられた「第2次中間報告」に係る意見募集及び4月に開催したシンポジウムの結果について、報告を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし